

日本建築学会 北陸支部大会シンポジウム

■日時 7月21日（土曜日）13時～17時

■場所 信州大学工学部総合研究科棟大会議室

【主題：北陸・信越地方の自然災害とその備え（仮題）】

内容：北陸・信越地方では2004年新潟県中越地震、2007年新潟県中越沖地震、2007年能登半島沖地震に続き、2011年には東北地方太平洋沖地震の直後に新潟県と長野県の県境において極大地震が発生し、またも建物が被害を受けた。このような地震被害のほかに、ここ10年の間に豪雪による被害も経験し、さらに河川の氾濫による建物被害も発生している。また、2012年5月には茨城県つくば市において竜巻が発生し、北陸・信越地方でも同種の被害が懸念されるところでもある。

そこで本シンポジウムでは、北陸・信越地方において、1) これまでどのような災害があり、2) 今後どのような災害が予想されるか、そして3) どう備えをどうするか、について情報交換し、今後の防災計画の一助としたい。

○主題解説 五十田博（信州大学）

【話題提供】

- ・地震動と被害 加藤大介（新潟大学）
- ・風・竜巻と被害 五十田博（信州大学）
- ・積雪と被害 西村督（金沢工業大学）
- ・自治体の取り組み事例 小林弘幸（長野県）
- ・パネルディスカッション

まとめ